

第6回神戸市地域公共交通会議 議事要旨

日時：令和元年10月18日（金）9時55分～12時00分

場所：三宮国際ビル7階701会議室

委員：出席者16名、欠席者1名

学識経験者	土井理事長、猪井准教
市民代表	近藤 淑實、樽谷 清、鍵田 武志、大城代 幸子
交通事業者	田村 幸久、野澤 俊博、林田 亨、松本 浩之
各種団体	水田 節男（欠席）、奥 篤、市成 秀人、藤井 崇
関係行政機関	岩野 住之、松本 元生、竹本 真也

協議事項：■北区北五葉コミュニティタクシー「おでかけ号」本格運行の実施について

→協議が整った

■神戸市交通局「45系統」運行の休廃止について

→協議が整った

主な発言内容：

《北五葉コミュニティタクシー「おでかけ号」本格運行実施について》

(樽谷)：地域でアンケートを取った際、40%の方が、「今後利用したい」という、近い将来利用するであろう潜在的な利用者がいることが分かった。走らせる会では、会合等の機会がある度に「おでかけ号」のPRをしている。絶えずPRする事により、地域の方が「おでかけ号」に関心を持ち、利用が増えることを期待している。

(土井)：「おでかけ号」が導入され、地域の方の「外出回数と送迎回数の変化」を調査してはどうか。調査する事により、新しい公共交通の指標分析が出来るかと思う。

(事務局)：今後、アンケートを行う際、地域の方に、負担のかからない程度に協力をいただき、集計作業を実施できればと考えている。

(猪井)：「複数人乗車」による割引料金は、車内に掲示されているか。掲示されているのであれば、通常料金と混雑し、混乱を招く恐れはないか。

(田村)：割引料金は車内に掲示されていない。予約の際、電話オペレーターが料金の案内をしている。

(松本元)：車いすを利用されている方の乗降はどのように行われているか。

(田村)：・セダン型のタクシー車両の場合、まず利用者の方に車内に乗車してもらい、乗務員が、車いすをトランクに収納している。

・今後UDタクシーとなれば、車いすに乗ったままの乗車が可能。

(奥)：・赤字がでない運行と説明があったが、実際は、事業者のボランティア精神がないと継続は難しいと思う。1ヶ月30人の利用が果たして赤字のない運行になっているのか。

・また、運賃1.8km680円と説明されていたが、消費税改定に伴い、1.8km690円になっていると思うので修正をお願いしたい。

・地域の方に伺いたい。毎月1回会合が開かれていると聞いた。会合の場で「おでかけ号」に対する要望は地域からでているか。

(田村)：・売上げの半額は運転手の給料。あとは経費。実際は、複数人で乗車してもらおうほうが利益はある。今後、複数人乗車で利用が増え、利益が上がる事を期待している。

・また、事業者としては、タクシー利用の閑散時間帯に新しいお客様層の獲得を目指すため、運行しているという目標も一つある。

(樽谷) : 今まで出た地域の要望としては、当初「おでかけ号」運行時間帯は、13時からの運行開始であったが、事業者に要望し、運行開始時間を12時半に変更してもらった。

また、すずらん病院を運行区域に追加して欲しいと希望を出したこと、乗車30分前までの電話予約を乗車20分前までの電話予約に変更してもらった事が挙げられる。

《神戸市交通局「45系統」運行の休廃止について》

(鍵田) : 45系統を運行開始する際、魚崎営業所からの回送バスを利用する為、それ程の赤字はでないと聞いていた。

・議題は「45系統の休廃止」となっている。休止という選択肢もあるのか。あるのであれば、休止を希望したい。

(大城代) : ・要望当初、国道43号線沿いに、新築の戸建て住宅やマンションが増え、子供連れの家庭の方が、「バスがないと不便だ」という声上がり、地域でアンケートを集め、交通局にバス運行の要望をだした。

・45系統の利用者数が少ないと聞いていたので、婦人会でも利用促進を促していたが、利用者数がこの結果であれば、諦めざるを得ないかと思う。

(岩野) : 手続き上、廃止は、路線をなくし、道路上にバスを走らせる許可も失くすということ。

休止は道路上に走る許可は残し、系統だけを失くすこと。但し、1年ごとに休止の手続きをしなければならない。

(土井) : 実際休止というのは、災害が起こった場合等が多いと思う。45系統のような事例の場合、休止はほぼ考えられず、休止の申請後に系統を復活させる作業は大変困難である。

(松本浩) : ・民間事業者から見ても、45系統の営業係数は、非常に厳しい数字である。廃止は仕方ないかと思う。

・また、現在、マスコミでもとりあげられている人手不足が深刻な問題である。そういった観点から考えても45系統の路線維持が難しい。

・国交省等で、自動運転の導入を推進し、人手不足に抗う作業は行っているが厳しいのが現状。

・そこで、新しいマーケットを考えてはどうか。地域の方が本当に必要である路線等を再度検討してはどうかと思う。

(土井) 57人/日のバスの利用者という結果から見て、本当にバスとして成り立っているのか。

要望にあった43号線をわたるためにバスが必要だということだが、これについてバスができることはあまりないと考えられる。

(林田) : 松本社長からの話もあったように、バスの運転手の人材不足が深刻な問題となっている中、路線バスだけでなく、「公共交通」という新しい枠組みの中で、神戸市の公共交通を再度考えていこうと市全体で検討している段階である。

(鍵田) : 回送ルートを活用しての存続は難しいのか。

(藤井) : 回送ルートを利用するから赤字はそれほど出ないという発言があったが、車の経費、人件費等の費用もかかってくる。回送コースを使って運行したとしても、回送コースは工場地帯もルートに含まれており、あまり需要が見込めないと思う。

(土井) : 地域公共交通会議の協議として、45系統は「廃止」でよいか。

また、45系統が正式に廃止となった際、現在利用されている1日57人の利用者に対してのフォローは何らかの形で行って欲しいことを地域の方をお願いしたい。

(鍵田) : 分かった。今後、周知を行っていく。